

博 士 論 文 （要 約）

論文題目： 「女性向け」アダルトビデオの社会学的研究
——性的主体化と抵抗可能性

氏 名： 服部 恵典

(2) 目次

1 章	本研究の目的, 対象の設定	6
1.1	本研究の目的——性的主体化の権力を批判する	
1.2	「女性向けアダルトビデオ」という対象の選択	
1.3	「女性向けアダルトビデオ」の定義	
1.4	本論文の構成	
2 章	先行研究と問題の所在	18
2.1	「性の商品化」論争	
2.2	性的主体化の装置としてのポルノグラフィ	
2.3	「女性の性的主体化」に向けた検討	
2.4	女性向けポルノグラフィ研究	
2.5	J.バトラーの反ポルノ批判	
2.6	本章のまとめ	
3 章	日本の女性向けアダルトビデオ史	37
3.1	AV 視聴空間の狭小化とスクリーンの個人化	
3.2	SILK LABO 以前の女性向け AV	
3.3	SILK LABO とは何か	
3.4	GIRL'S CH とは何か	
3.5	男性向け AV メーカーと「女性向け」AV の関係性	
4 章	アダルト動画販売サイトの計量テキスト分析	51
4.1	計量テキスト分析による検証と探索	
4.2	検討される先行研究の知見	
4.3	本章の調査方法	
4.3.1	分析に使用するデータセット	
4.3.2	分析手法——Jaccard 係数による特徴語の分析	
4.4	結果・考察	
4.4.1	人気男性向け AV の特徴	
4.4.2	2010 年以降のタイトルの特徴	
4.4.3	SILK LABO と GIRL'S CH に共通する特徴	
4.4.4	SILK LABO 作品の特徴	
4.4.5	GIRL'S CH 作品の特徴	
4.5	本章のまとめ	
5 章	性的欲望による主体化——SILK LABO を例に	76
5.1	SILK LABO 作品の物語展開の特徴	
5.1.1	セックスの中断	

5.1.2	セックスの前後を描く	
5.2	性的欲望の語彙体系への「入口」	
5.2.1	「初心者」から「上級者」へ	
5.2.2	SILK LABO における「告白」	
5.3	本章のまとめ	
6章	男性向け／女性向け AV における視線の構成と同一化の効果	88
6.1	問題の所在——ポルノと同一化を分析する適切な距離	
6.2	映像技法とコンテキスト	
6.2.1	半主観的映像と身体離脱ショット	
6.2.2	コンテキストに埋めこまれた技法	
6.2.3	技法の同定とコンテキスト	
6.2.4	脱コンテキスト化させる視聴	
6.3	男性向け AV の見つめ合う視線	
6.3.1	完全主観的映像の失敗と成功	
6.3.2	主観的映像と半主観的映像のキュビズム	
6.3.3	男性向け AV の視線とジェンダー化	
6.4	女性向け AV の第三者視点	
6.4.1	女性主観映像の革新性と希少性	
6.4.2	女性向け AV の第三者視点	
6.4.3	女性向け AV におけるモノローグ	
6.4.4	SILK LABO における「ハメ撮り」	
6.4.5	GIRL'S CH における「ハメ撮り」	
6.4.6	女性向け AV の視線とジェンダー化	
6.5	本章のまとめ	
7章	アダルトビデオを「女性向け」に編集する動画サイトとその視聴者	128
7.1	問題の所在——アダルトビデオを「女性向け」に編集する動画サイト	
7.2	ジェンダー化されたポルノジャンルの「再意味づけ」	
7.3	研究方法, 研究対象の概要	
7.4	分析——男性向け AV はいかに「女性向け」と受け入れられるようになるのか	
7.4.1	サイト運営者——「男性向け AV も女性が楽しめるはずだ」	
7.4.2	レビュー欄——男性も映ること, 性交に至る合意, 「自然」な快感表現	
7.4.3	映像表現・編集技法——脱文脈化, 盗撮, 「ハメ撮り」	
7.5	考察——「作品」と「シーン」の再意味づけ	
7.6	本章のまとめ	
8章	女性向け AV を視聴するファンの語りの聴き手と調査可能性	142
8.1	ポルノ視聴者の調査における「口述の場所性」	

8.2	先行研究	
8.2.1	ポルノ視聴者の調査可能性——調査者という聴き手	
8.2.2	ポルノグラフィ・ファン研究	
8.3	調査方法	
8.3.1	インタビュー協力者の募集方法	
8.3.2	インタビュー協力者の概要とインタビュー方法	
8.4	ファンは誰に何を話すのか	
8.4.1	非ファンに話す——AV 男優であることを避けて話す	
8.4.2	ファン同士で話す——AV について自己の性的経験を避けて話す	
8.4.3	別の場を見つけて話す——自己の性的経験を話す	
8.4.4	あえて誰にでも話す——自己像を語り直す	
8.5	ファンは調査者に何を話すのか	
8.5.1	「女性向け AV の研究者」の位置——例外的な「男性」になる	
8.5.2	男性研究者と話す——別の場で男性と語り慣れる	
8.5.3	好みを調査者に説明する——性的欲望の「告白」を避ける	
8.6	本章のまとめ	
9 章	女性向け AV を視聴するファンによるジャンルの越境と相対化	173
9.1	問題の所在の再確認	
9.2	調査結果	
9.2.1	「女性」として男性向け AV を楽しむことの 2 つの意味	
9.2.2	男性向け AV にトラウマがあった例	
9.2.3	男性向け／女性向けという区分の相対化	
9.3	本章のまとめ	
10 章	結論	183
10.1	本研究の要旨	
10.2	本研究のインプリケーション	
10.3	本研究の限界と今後の展望	
	[文献]	193

(3) 本文

本論文の全体が、5 年以内に単行本として刊行される予定があるため、インターネット公表を差し控えさせていただきます。

(4) 参考文献一覧

- 阿部嘉昭, 1998, 『AV原論』関西学院大学出版会.
———, 2015, 『平成ボーダー文化論』水声社.
赤川学, 1995, 「売買春をめぐる言説のレトリック分析」江原由美子編『性の商品化——フェミニズムの主張〈2〉』勁草書房, 153-201.
———, 1996a, 『性への自由／性からの自由——ボルノグラフィの歴史社会学』青弓社.
———, 1996b, 「AVの社会史」上野千鶴子編『現代の世相① 色と欲』小学館, 167-90.
———, 1999, 『セクシュアリティの歴史社会学』勁草書房.
———, 2022, 「歴史社会学の作法の凄み——『流言蜚語』について」赤川学・祐成保志編『社会の解読力〈歴史編〉——現在せざるものへの経路』新曜社, 201-17.
秋本雅代・奥山妙子・諸橋泰樹, 1987, 「レディスコミックにみられる女性規範正統化の構造」『女性学年報』(8):67-83.
雨宮まみ, 2011, 「特集『女性向け AV の現在形』——アダルトレーベル『SILK LABO』プロデューサー・牧野江里 インタビュー」, WEB SNIPER, (2022 年 11 月 8 日取得, http://sniper.jp/300special_issue/3009adultmedia_for_woman/avsilk_lab.html).
浅野千恵, 1995, 「潜在的商品としての身体と摂食障害」江原由美子編『性の商品化——フェミニズムの主張〈2〉』勁草書房, 75-109.
Attwood, Feona, Clarissa Smith & Martin Barker, 2018, “‘I’m Just Curious and Still Exploring Myself’: Young People and Pornography,” *New Media & Society*, 20(10): 3738-59.
Aumont, Jacques, Alain Bergala, Michel Marie et Marc Vernet, 1994, *Esthétique du film*, 2ème édition, Paris, Nathan. (武田潔訳, 2000, 『映画理論講義——映像の理解と探究のために』勁草書房.)
Austin, John L. (James O. Urmsen ed.), 1962, *How to Do Things with Words: The William James Lectures delivered at Harvard University in 1955*, Oxford: Clarendon Press. (飯野勝巳訳, 2019, 『言語と行為——いかにして言葉でものごとを行うか』講談社.)
東浩紀, 2001, 『動物化するポストモダン——オタクから見た日本社会』講談社.
東園子, 2015, 『宝塚・やおい, 愛の読み替え——女性のポピュラーカルチャーの社会学』新曜社.

- 馬場淳, 2017, 「喚起されるホモソーシャルティ——アダルトビデオの行為論, あるいは精液の社会的エージェンシー」『和光大学現代人間学部紀要』(10): 179-94.
- Bordwell, David, 1997, *On the History of Film Style*, Cambridge: Harvard University Press. (小町眞之訳, 2003, 『映画の様式——その変化と連続性』鼎書房.)
- Browne, Nick, 1975, "The Spectator-in-the-Text: The Rhetoric of "Stagecoach", *Film Quarterly*, 29(2): 26-38.
- Busse, Kristina & Jonathan Gray, 2011, "Fan Culture and Fan Communities," Virginia Nightingale ed., *The Handbook of Media Audiences*, Malden, MA: Wiley-Blackwell, 25-43.
- Butler, Judith, 1990a, *Gender Trouble: Feminism and the Subversion of Identity*, Routledge. (竹村和子訳, 1999, 『ジェンダー・トラブル——フェミニズムとアイデンティティの攪乱』青土社.)
- , 1990b, "The Force of Fantasy: Feminism, Mapplethorpe, and Discursive Excess," *differences*, 2(2): 105-25.
- , [1991]1993, "Imitation and Gender Insubordination," Henry Abelove, Michèle A. Barale and David M. Halperin eds., *The Lesbian and Gay Studies Reader*, New York and London: Routledge, 307-20. (杉浦悦子訳, 1996, 「模倣とジェンダーへの抵抗」『imago』7(6): 116-35.)
- , 1997, *Excitable Speech: A Politics of the Performative*, New York & London: Routledge. (竹村和子訳, [2004]2015, 『触発する言葉——言語・権力・行為体』岩波書店.)
- , 1997b, *The Psychic Life of Power: Theories in Subjection*, Stanford: Stanford University Press. (佐藤嘉幸・清水知子訳, 2012, 『権力の心的な生——主体化＝服従化に関する諸理論』月曜社.)
- Derrida, Jacques, 1990, *Limited inc.*, Paris: Galilée. (高橋哲哉・増田一夫・宮崎裕助訳, 2002, 『有限責任会社』法政大学出版局.)
- Doane, Mary Ann, 1982, "Film and the Masquerade: Theorising the Female Spectator," *Screen*, 23(3-4): 74-88.
- , 1986, "The Voice in the Cinema: The Articulation of Body and Space," Philip Rosen eds., *Narrative, Apparatus, Ideology: A Film Theory Reader*, Columbia University Press. (松田英男訳, 1999, 「映画における声——身体と空間の分節」岩本憲児・斉藤綾子・武田潔編『「新」映画理論集成 ②知覚／表象／読解』フィルムアート社, 312-25.)
- Dworkin, Andrea, 1979, *Pornography: Men Possessing Women*, E.P.Dutton. (寺沢みづほ訳, 1991, 『ポルノグラフィ——女を所有する男たち』青土社.)
- Dworkin, Andrea & Catharine MacKinnon, 1988, *Pornography & Civil Rights: A New Day for Women's Equality*, Minneapolis: Organizing Against Pornography. (中里見博・森田成也訳, 2002, 『ポルノグラフィと性差別』青木書店.)
- 江口聡, 2007, 「ポルノグラフィに対する言語行為論アプローチ」京都女子大学『現代社会研究科論集』(1): 23-37.
- Elliott, Anthony, 2008, *Concepts of the Self*, Cambridge: Polity Press. (片桐雅隆・森真一訳, 2008, 『自己論を学ぶ人のために』世界思想社.)

- 衿野未矢, [1990]1993, 『レディース・コミックの女性学——誰が育て、なぜ定着したか?』 廣済堂出版.
- FANZA, 2018, 「【FANZA REPORT 2018】 今年のエロトレンドは! ? 「性に関する統計調査」 結果発表! 」, FANZA Magazine, (2022年11月8日取得, <https://special.dmm.co.jp/fanza/feed/news/fanza-report-2018>)
- Foucault, Michel, 1976, *Histoire de la Sexualité Vol.1 La Volonté de Savoir*, Gallimard. (渡辺守章訳, 1986, 『性の歴史 I 知への意志』新潮社.)
- , 1982, "The Subject and Power," Dreyfus, H. and P. Rabinow eds., *Michel Foucault: Beyond Structuralism and Hermeneutics*, Univ of Chicago Press, 208-26. (山田徹郎訳, 1996, 「主体と権力」山形頼洋・鷺田清一ほか訳『ミシェル・フーコー——構造主義と解釈学を超えて』筑摩書房.)
- 藤木 TDC, 2009, 『アダルトビデオ革命史』幻冬舎.
- 藤本由香里 (白藤花夜子), 1999, 『快樂電流——女の, 欲望の, かたち』河出書房新社.
- 船橋邦子, 1990, 「ポルノ文化と性暴力」『現代思想』18(1): 148-56.
- Giddens, Anthony, 1992, *The Transformation of Intimacy: Sexuality, Love and Eroticism in Modern Societies*, Polity Press. (松尾精文・松川昭子訳, 1995, 『親密性の変容——近代社会におけるセクシュアリティ, 愛情, エロティシズム』而立書房.)
- Hall, Stuart, 1980, "Encoding / Decoding," Hall, D. Hobson, A. Lowe, and P. Willis eds., *Culture, Media, Language: Working Papers in Cultural Studies, 1972-79*, London: Hutchinson, 128-38.
- 濱野智史, 2008, 「ニコニコ動画の生成力 (ジェネレイティビティ) ——メタデータが可能にする新たな創造性」『思想地図』2: 313-54.
- Hambleton, Alexandra, 2016, "When Women Watch: The Subversive Potential of Female-Friendly Pornography in Japan," *Porn Studies*, 3(4): 427-42.
- , 2020, "Gold Fingers or Golden Opportunity?: Porn Stars, Sex Education, and Masculinity in Contemporary Japan," *Porn Studies*, 7(3):291-302.
- 服部恵典, 2019, 「女性向け AV 男優という『エロティック・アイドル』——若さ・素・顔」『ユリイカ』51(16): 285-92.
- , 2020, 「ポルノグラフィ消費者によるジェンダー化されたジャンルの視聴と解釈——女性向けアダルトビデオを視聴するファンに着目して」『年報カルチュラル・スタディーズ』8, 35-57.
- Hellekson, Karen, & Kristina Busse, 2006, "Introduction: Work in Progress," Karen Hellekson & Kristina Busse eds., *Fan Fiction and Fan Communities in the Age of the Internet*, Jefferson, North Carolina: McFarland Press, 5-32.
- Herbert, Daniel., 2014, *Videoland: Movie Culture at the American Video Store*, University of California Press. (生井英考・丸山雄生・渡部宏樹訳, 2021, 『ビデオランド——レンタルビデオともうひとつのアメリカ映画史』作品社.)
- 樋口耕一, 2017, 「計量テキスト分析および KH Coder の利用状況と展望」『社会学評論』68(3): 334-50.
- Hills, Matt, 2002, *Fan Cultures*, London: Routledge.

- , 2014, “Returning to ‘Becoming-a-fan’ Stories: Theorising Transformational Objects and the Emergence/Extension of Fandom,” L. Duits, K. Zwaan and S. Reijnders eds., *The Ashgate Research Companion to Fan Cultures*, Ashgate, 9-21.
- 堀あきこ, 2009, 『欲望のコード——マンガにみるセクシュアリティの男女差』臨川書店.
- , 2020, 「BLとポルノ」堀あきこ・守如子編著『BLの教科書』有斐閣, 138-51.
- Hunt, Jennifer C., 1989, *Psychoanalytic Aspects of Fieldwork*, Sage Publications.
- 池田太臣, 2014, 「アイデンティティとファン活動——ファンとは誰か？」『甲南女子大学研究紀要. 人間科学編』(50): 73-81.
- 石田喜美, 2006, 「相互行為場面における『読むこと』の意味の交渉——メディア・ファン・コミュニティに関わる女性へのインタビューの分析から」『読書科学』50(1): 13-22.
- 石田佐恵子, 2000, 「メディア文化研究におけるジェンダー——あるいはジャンル研究の含意」吉見俊哉編『メディア・スタディーズ』せりか書房, 113-27.
- 泉信行, 2008, 『漫画をめくる冒険——読み方から見え方まで 上巻・視点』ピアノ・ファイア・パブリッシング.
- , 2009, 『漫画をめくる冒険——読み方から見え方まで 下巻・The Book』ピアノ・ファイア・パブリッシング.
- Juffer, Jane, 1998, *At Home with Pornography: Women, Sex, and Everyday Life*, New York University Press.
- 金塚貞文, 1987, 『オナニズムの仕掛け』青弓社.
- 加藤秀一, 1995, 「〈性の商品化〉をめぐるノート」江原由美子編『性の商品化——フェミニズムの主張 2』勁草書房, 233-78.
- 河田学, 2011, 「ポルノグラフィーとは何か? ——ポルノ写真の《虚構性》を手がかりに」大浦康介編『共同研究ポルノグラフィー』平凡社, 355-79.
- 風間孝, 2003, 「介入の場としてのゲイ・ポルノグラフィ」『女性学』10, 8-29.
- 木川誠子, 2016, 「【私の生き方】"女性向けアダルトビデオ"を作ったワケ」, Cosmopolitan, (2022年11月8日取得, <https://www.cosmopolitan.com/jp/trends/lifestyle/interviews/a1653/living-your-own-life-in-tokyo-eri-makino/>)
- 稀見理都, 2017, 『エロマンガ表現史』太田出版.
- 木下幸太郎, 2015, 「鈴木涼美氏インタビュー」『映像派 vol.1』映像派, 10-21.
- 北田暁大, 2017, 「動物たちの楽園と妄想の共同体——オタク文化受容様式とジェンダー」北田暁大・解体研編『社会にとって趣味とは何か——文化社会学の方法規準』河出書房新社, 261-313.
- 北村匡平, 2021, 『24 フレームの映画学——映像表現を解体する』晃洋書房.
- 小林義寛, 2007, 「ゲーマーはエロと戯れるか?」玉川博章・名藤多香子・小林義寛・岡井崇之・東園子・辻泉『それぞれのファン研究——I am a fan』風塵社, 119-53.
- 小宮友根, 2011, 『実践の中のジェンダー——法システムの社会的記述』新曜社.
- 近藤和都, 2021, 「プラットフォームと選択——レンタルビデオ店の歴史社会学」伊藤守編著『ポストメディア・セオリーズ——メディア研究の新展開』ミネルヴァ書房, 326-49.

- , 2022, 「レンタルビデオ店という文化装置——店舗の大規模化を介した旧作ソフトの価値転換」永田大輔・近藤和都・溝尻真也・飯田豊『ビデオのメディア論』青弓社, 186-224.
- くろがね阿礼, 2016, 「【AV 廃人・くろがね阿礼が徹底分析!】11月はどの新人ちゃんがハネたの?そして12月デビュー新人の予約段階お気に入り数で占うヒットの行方!【業界騒然のヒット解析がここにある!】」, FANZA ニュース, (2022年11月8日取得, <https://news.dmm.co.jp/article/992730/>).
- Lieberman, Rachael, 2015, "It's a Really Great Tool": Feminist Pornography and the Promotion of Sexual Subjectivity" *Porn Studies*, 2(2-3): 174-191.
- Lindgren, Simon, 2010, "Widening the Glory Hole: The Discourse of Online Porn Fandom," Feona Attwood ed., *Porn.com: Making Sense of Online Pornography*, New York: Peter Lang, 171-85.
- MacKinnon, Catharine A., 1993, *Only Words*, Cambridge, MA: Harvard University Press. (柿木和代訳, 1995, 『ポルノグラフィ——「平等権」と「表現の自由」の間で』明石書店.)
- 牧野江里, 2012, 『女子の保健体育』宝島社.
- 牧田翠, 2014, 『エロマンガ統計総集編「STARS」』でいひま.
- , 2017, 『13歳でもわかるエロマンガ統計』でいひま.
- 丸山圭三郎, 2008, 『言葉とは何か』筑摩書房.
- May, Tim, 2001, *Social Research: Issues, Methods and Process 3rd ed.*, Buckingham: Open University Press. (中野正大監訳, 2005, 『社会調査の考え方——論点と方法』世界思想社.)
- McCloud, Scott, 1993, *Understanding Comics: The Invisible Art*, New York: Harper Perennial. (岡田斗司夫監訳, 1998, 『マンガ学——マンガによるマンガのためのマンガ理論』美術出版社.)
- McCormack, Mark, & Liam Wignall, 2017, "Enjoyment, Exploration and Education: Understanding the Consumption of Pornography Among Young Men with Non-Exclusive Sexual Orientations," *Sociology*, 51(5): 975-91.
- McKee, Alan, 2018, "Porn Consumers as Fans," Paul Booth ed., *A Companion to Media Fandom and Fan Studies*, John Wiley & Sons: 509-20.
- McKeown, Janet.K.L., Diana.C.Parry, & Tracy Penny Light, 2018, "My iPhone Changed My Life": How Digital Technologies Can Enable Women's Consumption of Online Sexually Explicit Materials," *Sexuality & Culture*, 22: 340-54.
- Metz, Christian, 1972, *Essais sur la signification au cinéma*, Paris: Klincksieck. (浅沼圭司訳, 1987, 『映画記号学の諸問題』白馬書房.)
- Mills, Charles Wright, 1963, "Situated Actions and Vocabularies of Motive," Irving Louis Horowitz ed., *Power, Politics, and People: The Collected Essays of C. Wright Mills*, New York: Oxford University Press, 439-68. (田中義久訳, 1971, 「状況化された行為と動機の語彙」青井和夫・本間康平監訳『権力・政治・民衆』みすず書房, 344-55.)
- 三輪健太郎, 2014, 『マンガと映画——コマと映画の理論』NTT出版株式会社.
- 溝尻真也, 2012, 「ビデオテクノロジーの歴史的展開にみる技術／空間／セクシュアリティ

- 1970 年代日本におけるビデオ受容空間とそのイメージの変遷」『愛知淑徳大学論集 メディアプロデュース学部篇』2: 39-54.
- 守如子, 2010, 『女はポルノを読む——女性の性欲とフェミニズム』青弓社.
- 森岡正博, 2013, 『決定版 感じない男』筑摩書房.
- Mulvey, Laura, 1975, “Visual Pleasure and Narrative Cinema,” *Screen*, 16(3): 6-18. (斎藤綾子訳, 1998, 「視覚的快楽と物語映画」岩本憲児・武田潔・斎藤綾子編『新映画理論集成(1) 歴史／人種／ジェンダー』フィルムアート社, 126-41.)
- 中村敦彦, 2012, 『職業としてのAV女優』幻冬舎.
- 永井良和, 1992, 「アダルトビデオと欲望の変容——縮みゆく男性性」アクロス編集室編『ポップ・コミュニケーション全書——カルトからカラオケまでニッポン「新」現象を解明する』PARCO 出版局, 178-207.
- 長澤均, 2016, 『ポルノムービーの映像美学——エディソンからアンドリュー・ブレイクまで 視線と扇情の文化』彩流社.
- 永山薫, 2014, 『増補 エロマンガ・スタディーズ——「快楽装置」としての漫画入門』筑摩書房.
- 中里見博, 2007, 『ポルノグラフィと性暴力——新たな法規制を求めて』明石書店.
- 中野卓, 1977, 『口述の生活史——或る女の愛と呪いの日本近代』御茶の水書房.
- 西原麻里, 2013, 「女性向け男性同性愛マンガの表現史——1970 年から 2000 年まで」同志社大学大学院社会学研究科メディア学専攻博士学位論文.
- 荻上チキ, 2011, 『セックスメディア 30 年史——欲望の革命児たち』筑摩書房.
- 荻上チキ・牧野江里, 2015, 「いかにして『女性向けの AV』は確立されたか?」, 日刊 SPA!, (2022 年 11 月 8 日取得, <https://nikkan-spa.jp/861503>)
- 大尾侑子, 2016, 「ファン・アイデンティティの宣言に伴うジレンマと処理パターン——ヴィジュアル系ファンへの質的調査をもとに」『ソシオロギス』(40): 111-32.
- , 2021, 「デジタル・ファンダム研究の射程——非物質的労働と時間感覚にみる『フルタイム・ファンダム』」伊藤守編著『ポストメディア・セオリーズ——メディア研究の新展開』ミネルヴァ書房, 208-32.
- 大貫拳学, 2014, 『性的主体化と社会空間——バトラーのパフォーマティヴィティ概念をめぐって』インパクト出版会.
- 大塚英志, 1997, 「戦後まんがは『心』をどう表現してきたか」色川大吉編『現代の世相⑦ 心とメディア』小学館, 205-40.
- Passerini, Luisa, 1998, “Work Ideology and Consensus under Italian Fascism,” R. Perks and A. Thomson eds., *The Oral History Reader*, London: Routledge: 53-62.
- Plummer, Ken, 1995, *Telling Sexual Stories: Power, Change and Social Worlds*, London and New York: Routledge. (桜井厚・好井裕明・小林多寿子訳, 1998, 『セクシュアル・ストーリーの時代——語りのポリティクス』新曜社.)
- Pornhub, 2019, “The 2019 Year in Review,” Pornhub Insights, (Retrieved November 8, 2022, <https://www.pornhub.com/insights/2019-year-in-review>) .
- Routley, Nick, 2019, “Ranking the Top 100 Websites in the World,” Visual Capitalist, (Retrieved November 8, 2022, <https://www.visualcapitalist.com/ranking-the-top-100-websites-in-the->

world/)

- Rubin, Gayle, 1982, "Thinking Sex: Notes for a Radical Theory of the Politics of Sexuality," Carole S. Vance ed., *Pleasure and danger: exploring female sexuality*, Boston: Routledge & K. Paul. (河口和也訳, 1997, 「性を考える——セクシュアリティの政治に関するラディカルな理論のための覚書」『現代思想』25(6): 94-144.
- Russo, Julie Levin, 2007, "The Real Thing': Reframing Queer Pornography for Virtual Spaces," Katrien Jacobs, Marije Janssen & Matteo Pasquinelli eds., *C'Lick Me: A Netporn Studies Reader*, Institute of Network Cultures, 239-51.
- ササキバラ・ゴウ, 2004, 『〈美少女〉の現代史——「萌え」とキャラクター』講談社.
- 斉藤環, 2009, 『関係する女 所有する男』講談社.
- 左古輝人, 2017, 「近世英国における society の形成——テキストマイニングによる分析」『社会学評論』68(3):368-385.
- , 2021, 「序」左古輝人編, 『テキスト計量の最前線——データ時代の社会知を拓く』ひつじ書房.
- 桜井厚, 2002, 『インタビューの社会学——ライフストーリーの聞き方』せりか書房.
- Salganik, Matthew J., 2017, *Bit by bit: Social Research in the Digital Age*, Princeton University Press. (瀧川裕貴・常松淳・阪本拓人・大林真也訳, 2019, 『ビット・バイ・ビット——デジタル社会調査入門』有斐閣.)
- 笹本純, 2002, 「マンガの語りにおける視点とその決定因としての内語」ジャクリーヌ・ベルント編『マン美研——マンガの美／学な次元への接近』醍醐書房, 193-216.
- 佐藤健二, 1995, 「ライフストーリー研究の位相」中野卓・桜井厚編『ライフストーリーの社会学』弘文堂, 13-41. (再録: 2011, 『社会調査史のリテラシー——方法を読む社会的想像力』新曜社, 141-66.
- Schauer, Terrie, 2005, "Women's Porno: The Heterosexual Female Gaze in Porn Sites "for Women", " *Sexuality and Culture*, 9(2): 42-64.
- 瀬地山角, 1992, 「よりよい性の商品化へ向けて」江原由美子編『フェミニズムの主張』勁草書房, 45-91.
- , 1998, 「ポルノグラフィの政治学——性の商品化という問い」小林康夫・船曳建夫編『新・知の技法』東京大学出版会, 69-83.
- 瀬尾祐一, 2020, 「ファンカルチャーの理論——ファン研究の展開と展望」永田大輔・松永伸太郎編著『アニメの社会学——アニメファンとアニメ制作者たちの文化産業論』ナカニシヤ出版, 23-38.
- シャムーン, デボラ [田中慶一訳], 2002, 「『アクセス』と『エスティックス』——レディース・コミックにおける女性の欲望と視覚的快楽」ジャクリーヌ・ベルント編『マン美研——マンガの美／学な次元への接近』醍醐書房, 271-302.
- 清水晶子, 2016, 「ポルノ表現について考えるときに覚えておくべきただ一つのシンプルなこと (あるいはいくつものそれほどシンプルではない議論)」北田暁大・神野真吾・竹田恵子 (社会の芸術フォーラム運営委員会) 編『社会の芸術／芸術という社会——社会とアートの関係, その再創造に向けて』フィルムアート社, 144-65.

- 清水亮, 2022, 「戦争体験と『経験』——語り部のライフヒストリー研究のために」 赤川学・祐成保志編『社会の解読力〈歴史編〉——現在せざるものへの経路』新曜社, 65-85.
- SILK LABO, 2022, 「SILK LABO 出演男性モデル『エロメン』募集」, SILK LABO, (2022年11月8日取得, <https://www.silklabo.com/special/eromen/>)
- Smith, Clarissa, Martin Barker & Feona Attwood, 2015, "Why Do People Watch Porn? Results from PornResearch.Org," Lynn Comella & Shira Tarrant eds., *New Views on Pornography: Sexuality, Politics, and the Law*, Santa Barbara, Calif: Praeger, 277-96.
- Soble, Alan, 1986, *Pornography: Marxism, Feminism, and the Future of Sexuality*, New Haven: Yale University Press.
- 総務省, 2017, 『平成29年版 情報通信白書』.
- Steinem, Gloria, 1983, *Outrageous Acts and Everyday Rebellions*, New York: Holt, Rinehart and Winston. (道下匡子訳, 1985, 『プレイボーイ・クラブ潜入記——新・生きかた論』三笠書房.)
- 鈴木涼美, 2013, 『「AV女優」の社会学——なぜ彼女たちは饒舌に自らを語るのか』青土社.
- , 2014, 「『文春』に“AV女優歴”を暴かれた元日経記者・鈴木涼美が緊急寄稿!」, LITERA, (2022年11月8日取得, <https://lite-ra.com/2014/10/post-521.html>)
- , 2016, 「女性向けAVという幻想」, GQ JAPAN, (2022年11月8日取得, <https://www.gqjapan.jp/culture/love-sex/20160127/porn-for-women>)
- 鈴木綾子, 2006, 「『女のため』のポルノグラフィ——女性向けアダルトビデオをめぐる」 京都大学大学院人間・環境学研究科共生文明学専攻文化・地域環境論講座文化人類学分野2005年度修士学位論文.
- 田亀源五郎・藤本由香里, 2020, 「BLマンガとゲイコミック」堀あきこ・守如子編著, 2020, 『BLの教科書』有斐閣, 152-5.
- 高艸賢, 2020, 「ファン対象の推移からみる水樹奈々ファンの多様性——商品の意味連関とアクセスポイントに着目して」永田大輔・松永伸太郎編著『アニメの社会学——アニメファンとアニメ制作者たちの文化産業論』ナカニシヤ出版, 52-65.
- 竹内オサム, 2005, 『マンガ表現学入門』筑摩書房.
- 田中雅一, 2010, 『癒しとイヤラシー——エロスの文化人類学』筑摩書房.
- Taormino, Tristan, Constance Penley, Celine Parrenas Shimizu & Mireille Miller-Young eds., *The Feminist Porn Book: The Politics of Producing Pleasure*, New York: The Feminist Press at the City University of New York.
- 田崎英明, 1993, 『セックスなんてこわくない——快樂のための7つのレッスン』河出書房新社.
- 上野千鶴子, 2002, 「ジェンダー研究への誘い」アエラ編集部編『ジェンダーがわかる.』朝日新聞社, 4-8.
- , 2015, 『発情装置 新版』岩波書店.
- Vörös, Florian, 2015, "Troubling Complicity: Audience Ethnography, Male Porn Viewers and Feminist Critique," *Porn Studies*, 2(2-3): 137-49.

- Waters, Melanie, 2007, "Sexing It Up?: Women, Pornography and Third Wave Feminism," Stacy Gillis, Gillian Howie and Rebecca Munford eds., *Third Wave Feminism: A Critical Exploration 2nd edition*, Basingstoke: Palgrave, 250-65.
- Warren, Carol A. and Paul K. Rasmussen, 1977, "Sex and Gender in Field Research," *Urban Life*, 6(3): 349-69.
- Williams, Linda, 1989, *Hard Core: Power, Pleasure, and the "Frenzy of the Visible,"* Berkeley: University of California Press.
- Wilson, Gary, 2015, *Your Brain on Porn: Internet Pornography and the Emerging Science of Addiction*, Lightning Source Inc. (山形浩生訳, 2021, 『インターネットポルノ中毒——やめられない脳と中毒の科学』 DU BOOKS.)
- 山崎カヲル, 1994, 「ポルノをめぐる諸問題——反ポルノ派フェミニズム批判」インパクト出版編『インパクション』(84): 74-82.
- 安田理央, 2016, 『痴女の誕生——アダルトメディアは女性をどう描いてきたのか』太田出版.
- , 2023, 『日本 AV 全史』 ケンエレブックス.
- 吉澤夏子, 2012, 『「個人的なもの」と想像力』勁草書房.

(5) 論文の内容の要旨

本研究は、男性向け AV（アダルトビデオ）との比較によって、「女性向け」とされる AV がどのような性的主体化の装置であり、それを視聴者の解釈実践はどのように受容ないし抵抗するのかを明らかにすることを目的に研究を行った。

1 章では、なぜ「女性向け AV」を対象とするのか、「女性向け AV」とは何であるのかを議論した。女性向け AV を研究対象とする第一の理由は、現在、ポルノグラフィの最も中心的な存在である AV に着目することで、男性の性的欲望を逆照射するポテンシャルを持つからである。第二に、女性向けに描き下ろし・撮り下ろしされたポルノが市場にもたらすオルタナティブ性だけでなく、男性向けポルノに対する女性の解釈のオルタナティブ性を射程に含められるからである。第三に、AV が漫画や小説と最も異なるのは、現実に行われた性行為を映している点である。

2 章では、先行研究を検討することで、女性向け AV を分析する本研究の視角を示した。抑圧／解放の二項対立図式で（女性向け）ポルノグラフィを議論することには限界が指摘されており、性的主体を産出する装置としてポルノを捉える理論枠組みが有望といえる。しかし、先行研究の問題点として、①ポルノを性的主体化の視角から分析した研究は女性向けポルノが議論できない論理構成になっていたこと、②逆に女性向けポルノは主体化＝従属化の問題を看過したまま研究されてきたこと、③性的主体化に対する抵抗可能性が明らかになっていないことの 3 点があった。本研究はこれらの解決のために、M. フーコーの権力論をフェミニズム、クィア理論と結びつけた J. バトラーの性的主体化論を導入した。しかし、バトラーの理論を踏まえる限り、女性が現にどのように解釈しているのかに着目する実証的研究が必要であった。

3 章では、日本の女性向け AV 史を辿った。重要なのは、女性向け AV を研究するにあたっては、男性を主なターゲットとする AV メーカーとの関係性を踏まえる必要性があることである。かつては、男性向け AV メーカーの女性監督が女性から注目されたり、男性向け AV メーカーから女性向け宅配サービスが生まれたりしていた。本研究が主な対象としたメーカーについても、SILK LABO の 500 万円の元手や男優の専属契約資金、GIRL'S CH が主に初期に提供していた「女性向け」に再編集した自社の男性向け AV など、男性向け AV で成功してきたソフト・オン・デマンドグループの資本に支えられている。

4 章では、アダルト動画販売サイトの商品説明文の計量テキスト分析によって、男性向け AV と女性向け AV の差異の傾向を示した。男性向け AV の商品説明文は、性的アイデンティティとなる性的嗜好の語彙が多く用いられ、女性の身体、快感に焦点化していた。GIRL'S CH の商品説明文は、ストーリーを説明しつつも性行為の内容も説明しており、男性の身体、快感に焦点化していた。SILK LABO の商品説明文は、性的嗜好の語彙よりもドラマのストーリーを説明し、男性の身体というよりも男女の対を焦点化していた。また、SILK LABO 作品が、男性向け AV とは異なる特徴を有しながら、むしろより強く性的主体化の

装置としての機能を持っているのではないかと示唆された。

5 章では、SILK LABO の性的主体化の装置としての側面を検討した。男性向け AV は、すべてが性的興奮に結びつくように組織化されているという単調さをもつがゆえに、多様な性的嗜好を詰め込むことが可能になっていた。しかし、SILK LABO は、必ずしも性的興奮にむけて組織化されているわけではない。だが、性的嗜好のバリエーションを膨大に用意することよりも、性の選択の地平に参入するための入口として機能することが意識されている点において、SILK LABO は男性向け AV メーカーよりも性的欲望による主体化に意識的であるといえる。

6 章では、視聴者があるジェンダーの持ち主として主体化させるポルノの仕組みを、特に視線の構成と同一化効果の関係から明らかにした。主観的映像だけでなく半主観的映像も議論に導入することで、「男性の性的主体化」しか分析できていなかった先行研究の理論枠組みが、現実の女性向けポルノを分析するにあたっては不自由で強固な前提があったことを指摘した。また、技法はコンテクストに埋め込まれたかたちでしか効果を持たないと指摘することで、映像内在的な抵抗可能性を浮かび上がらせたと同時に、男性向け AV と女性向け AV の様式の差異を指摘した。男性向け AV では視聴者と女優が見つめ合うことが、女性向け AV ではカメラと俳優が見つめ合わないことが、リアリティの演出として意味を持っていた。第三者視点が基調である女性向け AV は、男性向け AV と比べて異性へのジェンダー化に開かれた映像として捉えられるが、これは、「女性」という性的主体のポジションの不安定さと、視聴者が「女性」以外への主体化に巻き込まれていく反復＝反覆可能性の両面を示していた。

7 章では、「ヘテロ男性を主なターゲットとする AV が、なぜ・いかにして一部を切り取るだけで『女性向け』のアダルト動画に編集（不）可能なのか」という問いを通じ、ポルノグラフィを「再意味づけ」する実践の可能性と限界を経験的に明らかにした。結果、1 本の作品から「女性向け」と感じられるシーンを発見する反面、女性に対し抑圧的とされ「男性向け」と感じられるシーンを取り除く編集によって、男性向け AV から女性向け動画を切り出すという実践と、男性向け／女性向け動画が真逆の性質を持つという理解が、矛盾せず両立していた。作品のうち一部のシーンのみ視聴しても問題がないという AV のメディア的特性が、この「再意味づけ」を支えつつも、ジェンダー化されたジャンルの攪乱を不十分なものに留まらせた。このように、「同一のテキスト」とは何なのかというメディア論的・表象文化論的問題と、ジェンダー・セクシュアリティ論的問題との交点で、バトラーの反ポルノ批判の有効性と同時に、その限界を経験的に明らかにした。ただし、アダルト動画サイトのレビュー欄というデータは、視聴者の映像解釈の詳細な分析には不向きであり、インタビュー調査で補完される必要が示された。

8 章では、調査者・被調査者が固有に持っている社会的経験の積み重ねや、インタビューという相互行為が、女性向け AV を視聴するファンが男性研究者に語る場の成立や語りの形式に作用していることを議論した。女性向け AV を視聴するファンは、インタビュー調査

以前から、ファン・コミュニティに限らない聴き手に対して語る（語らなければならない）状況があり、そこですでに語りの戦略を発揮している存在である。ゆえに、男性研究者のインタビューに答える以前から男性と AV について語り慣れていることが、障壁をなくしている場合もあった。それでも、ジェンダーが調査現場の相互行為によって前景化した場合、語りが滞ることもあるが、「女性向け AV の研究者」という属性の提示が、「女性」で「AV を視聴するファン」と同様に、「常識」と異なる文化に位置する聴き手であることを納得させていた。さらに、SILK LABO 作品を中心とした日本の女性向け AV や、それに出演する男優の魅力は、性的嗜好の告白を行わなくても十分に語ることができる余地があるゆえに、インタビューに答えやすくなっていた。

9章では、男性向け／女性向けAVという区分を女性視聴者はどう捉えているかという7章の問いを、女性向けAVを視聴するファンへのインタビュー調査によって改めて考察した。7章のデータでは「男性向け」という言葉は動画が自分の好みでないという批判に用いられていたが、9章のデータでは、ファンは単純に男性向けAVを批判するのではなく、「男優ファン」であるがゆえに男性向けAVの視聴を自然にファン活動に組み込んでいた。しかも男性向け作品を「仕方なく」視聴するのではなく、ある種のトラウマ経験がある女性であっても、両方に良さを感じながら楽しんでいた。また男性向け／女性向けを越境した視聴を行うだけでなく、そうした区分の必然性を揺るがすような捉え方もしていた。

10 章では、本研究の内容を再度まとめ直したうえで、本研究の意義と今後の課題を示した。本研究のインプリケーションとして、第一に、本研究はポルノを性的主体化の装置として分析する枠組みを批判的に発展させ、女性の性的主体化を議論した。第二に、女性向けポルノ表象のオルタナティヴ性だけでなく、女性視聴者の解釈のオルタナティヴ性も分析することで、男性向け／女性向けポルノを比較研究した先行研究とは異なる結論を止揚した。第三に、具体的に映像と視聴者を分析することで、バトラーの反ポルノ批判の可能性と同時に、その限界も指摘した。本研究の今後の課題は、第一に、インタビュー調査のさらなる拡充によって、女性向け AV の視聴者が現に AV 視聴をきっかけにいかなる自己アイデンティティを構築しているのかをより明らかにすることである。これを通じて、主体化の権力への抵抗可能性を視聴者の調査から裏付けること、セクシュアリティのアイデンティフィケーションとジェンダーのアイデンティフィケーションの関係性をさらに議論することも目指される。第二に、本研究は女性向け AV を研究することによって男性向け AV の特徴や男性の性的欲望を逆照射することも目指してきたが、今後は男性の多様性にも目を向ける必要がある。第三に、異性愛者の男性・女性だけでなく性的指向を含めた分析、メディア論的視角をより取り入れた分析へと発展的に展開することも、次なる課題となる。